

自己評価結果公表シート(中間)

(R3年度)

作成者 白ばら幼稚園 園長 森田 真弘

1、本園の教育理念・教育目標

◎教育理念・・・安定した情緒の下、日々の幼稚園生活を過ごすことで、感性豊かな心とたくましいからだを兼ね備えた真の国際人を育て、明るい日本の未来を創造する。

◎教育目標・・・真の国際人とは？(具体的に)

- ・素直な子
- ・明るく朗らかで活発な子
- ・喜んで様々な活動に取り組める子
- ・規律正しい子
- ・礼儀正しい子

こそ世界で日本人らしく活躍でき得る人材と捉え、日本の未来作りに学園として貢献する。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

令和という新しい時代に入り、幼児教育に求められる資質も急激に変化してきている。グローバル社会に対応するスピード感は待たなしであり、当園としても人格形成の基礎、そして将来への礎を養う大変重要な幼児期を以下の視点から保育を進めていくことで、将来国際人として十分に活躍出来得る素地をしっかりと身に付けていくことが重要と考える。

- ・国際化社会に通用する人材育成の基礎を築く
 - ① 対人間コミュニケーション能力の育成(アクティブラーニングの導入等)
 - ② 英語保育のさらなる充実(アドバンスクラスの運営開始(R2年度～)等)
- ・日本人として誇りを持って世界で活躍できる人材の育成の基礎を築く
 - ① 態度教育(挨拶・返事・履物をそろえる・立腰・食育)の導入により、元来日本人が備わっている規律・礼儀正しい子を育てつつ、自己成長意欲の高い自立した子どもを育てる。
 - ② 教職員が態度教育を園児・保護者に向けて率先垂範できる様、教員向け研修を行い、実践につなげる。
- ・情報化社会に対応すべく保育の可視化、可解化、そして保育に注ぐ秘めたる想いを教職員から保護者に対してSNS等をさらに活用しながら発信することで、保護者とより良いコミュニケーション・人間関係を構築し、心から信頼されるべき園及び教職員となる様、来年度に向けて新たな方策を模索する1年とする。
- ・子育て支援に関して昨年10月よりスタートした預かり保育の無償化により、今後ますます増加するであろう就労支援向け預かり保育の充実に向けて、人材確保等、計画と準備を進める。また満3歳児保育も無償化の対象となっていることから、R3年度から満3歳児保育のスタートに向けて認可定員の見直しを行う。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
対人間コミュニケーション能力の育成(アクティブラーニングの導入等)	態度教育の中でコミュニケーション能力の育成において最も基礎とされる「あいさつ・返事」を教職員が対園児・対保護者にしっかりと率先垂範することで、園児の対人間コミュニケーション能力の向上が少しずつ見られる様になった。また毎日の降園時の対保護者向け保育説明の導入により、より保護者との関係性が親密化してきており、園内におけるコミュニケーションは益々豊かになってきていると実感している。また、R3年度からは本格的に SNS を利用した保育の情報発信を計画的にしていくことから、コミュニケーションの密度はより濃いものになっていくと期待される。まずは量
当園が考えるコミュニケーション能力の育成とは？	
①フェイスツーフェイス	
②双方向型	
③問題解決型	
以上3つの要素を大事にする。	

	<p>の課題に取り組み、やがては量から質が問われてくると考えるので、日常の中で教職員の人間力向上に向けた園内研修を制度化していくことも求められる。</p> <p>またアクティブラーニングに向けた取り組みでは、設定保育において、これまでの教師から園児への一方通行的な指導方法から、園児の自発的な発想、発言を大切にし、集団内での自己達成感を感じられる様、意図的に園児に発言を引き出す質問をするなどの働きかけが必要である。また今後は子ども同士が議論できる場をどれだけ保育の中で提供できるかが課題である。</p> <p>また一昨年度の幼稚園教育要領の改訂を受けて、当園にはどんな課題があるかを全職員で議論する場が必要である。</p>
<p>英語保育の充実(R2年度～アドバンスクラスの開設とともに)</p>	<p>当園の通常クラスでは週2回×3年間の英語保育を行っており、英語教諭が言っていることは卒園時にはほぼ100%理解可能となってきた。しかしながら自分の言いたい事、言いたい気持ちが園児の発話からアウトプットとして英語教諭に対して出ているかという点はまだ不十分である。よって英語で双方向型のコミュニケーションができるという意味のバイリンガルを育てるためには、通常の保育内容をある程度維持しながらも英語の時間を格段に増やしていく必要がある。</p> <p>そこで今年度は3年間続けてきたインターナショナルクラスを改良し、新たに複数クラスのアドバンスクラスを開設することでより多くの園児がより多くの英語の時間に接することができる様、通常保育のカリキュラムの改善に加えて、外国人教師、クラス担任を含めた綿密な打ち合わせを行っている。今後はアドバンスクラスが増えることから、クラス担任と外国人教師との連携・コミュニケーションがキーポイントとなる。</p>
<p>態度教育(挨拶・返事・履物をそろえる・立腰・食育)の本格的導入により、より日本人らしい態度を備えた自立した子どもを育成する。</p>	<p>当園の最大の教育目標である真の国際人の育成とは日本人としての国際人の育成であり、ひいては日本人として誇りを持って社会で活躍できる人材の基礎を幼児期に培うことである。古き良き日本人のこころを今一度取り戻すことが必要である。そのためにはしつけの崩壊が叫ばれている昨今、今一度日本人が家庭にて当たり前に行ってきたしつけを幼稚園にて補完的に行っていく必要があると考え、態度教育に少しずつ取り組み出している。</p> <p>教職員に対して態度教育の必要性の更なる理解と、教職員がまずは率先して園児・保護者の前で実践することで園児、そして保護者が自立した人間としてより成長していくことの認識を教職員が徐々に深めてきてはいるものの、より徹底して態度教育に取り組むには教職員が態度教育について学ぶ更なる意欲が欠かせない。態度教育は学んで実行に移せば必ず良い結果が出てくるので、現在少しずつ結果が目に見えるようになってきていることからR3年度からは一歩も二歩もステップアップを図っていく。</p>
<p>情報化社会への対応と積極的な対保護者への情報発信に向けて</p>	<p>保育の可視化の重要性が叫ばれる中、当園で数年間かけて教職員が保護者に対して積極的に保育を説明する機会を設けることで、意識啓発を行うことができた。また R3年度からは全教員からSNS を利用した保育の情報発信をスタートしていくことから、情報に関してはまずは当面、質より量を求めていくこととする。</p>
<p>子育て支援(無償化の預かり保育、満3歳</p>	<p>子育て支援に関して昨年度10月よりスタートした預かり保育の無</p>

<p>児保育、未就園児クラス開設及び更なる預り保育の充実に向けて)</p>	<p>償化により、今後ますます増加するであろう就労支援向け預かり保育の充実に向けて、人材確保等、計画と準備を進める。また満3歳児も無償化の対象となっていることから、R3年4月からの満3歳児保育のスタートに向けて計画と準備を進める。また満3歳児クラスに入るまでの間の未就園児クラスの開設も R3年度4月から同時にスタートできる様、準備と計画を進める。</p> <p>また長期休業中の預り保育については、H29年度から夏・冬休み中の預り保育を部分的にスタートさせた。今後は春休み、そして早朝の預り保育の実施に向けて準備を進めていく必要がある。まずは保育者の数の確保も必要であるが、フリー教員の役割の見直しにより預かり保育を重点的に担当できる様、勤務時間、勤務日数の見直しから取り組む。</p>
---------------------------------------	--

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>10年以上の年月を費やして行ってきた園舎・園庭の改築改修が終わり、来るべく東南海地震に備えてハード面での課題はクリアすることができた。その反面、職員間における当園が進むべき保育内容(ソフト面)についての議論が不十分である。引き続き在園児の幼児教育を中心に据えながら、未就園児の子育て支援から卒園児の学習支援を含めた総合的な教育機関の実現に向けた学園としての課題に優先順位を付け、どう順序だててスピード感を持って取り組んでいくかが今後の課題である。幼児教育の無償化のスタートと同時に新型コロナウイルス感染症対策も必要となり、今後アフターコロナの時代、園が取り組むべき優先順位を今一度見直し、中・長期的な当園の発展計画の策定が必要である。</p>
--

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
<p>態度教育(活力朝礼を含む)の本格実施に向けて</p>	<p>R3年度、最短1年間をかけてNPO法人ASAの研修を全教員が受けることで、今後当園の教育目標に合った態度教育・活力朝礼をスタートさせることができる。R3年度は態度教育の目標、および実施項目を詳細に決めてそれを実行していることから、年度末には1年間の振り返りを行うことで次年度における更なる進展につなげていく。</p>
<p>自然体験の充実に向けて</p>	<p>3年前の園庭人工芝への改善は運動面では飛躍的効果が表れているが、反面自然との触れ合いが減少していることから、園外により多く出る機会を設けることができる様、園外保育専用の園バスの保有、農園との連携などを模索する。R3 年度は農園で園児自ら収穫した野菜を使った食育活動を数回実施していることから、引き続き給食室と連携して食育に力を入れていくこととする。R4年度には希望者のみ幼稚園で1年間使用する主食(米)の栽培を自らの手で体験できる特別なプログラムを企画し、実施する予定。</p>
<p>自園給食の実施</p>	<p>令和2年度に給食室を整備し、今年度から週5回の完全給食に移行できた。</p>
<p>卒園児対象の学習教室の開校</p>	<p>幼稚園で3年間学んだ英語・体操のさらなる向上に向けた学習の場と、小学生が基礎的学力として必要な STEAM 教育を中心に学べる卒園児対象の放課後学童保育室の整備に向けた準備を計画する。</p>